

令和5年6月28日
 鹿児島港本港区のまちづくりに関する調査特別委員会
 提出資料 No.1

	項目	前回の委員会（R5.6.6）以降の取組・経過等	今後の対応	担当課
1	サッカー等スタジアムの整備	<p>○令和5年6月15日、株式会社鹿児島プロスポーツプロジェクトより、2024年のJ1クラブライセンス取得のため、新スタジアム整備に関する「意向表明書の作成について」の文書が提出された。</p> <p>○5年6月21日、産業観光企業委員会において、スタジアム整備検討に係る今後の方向性（新たな協議会の設置）について報告した。</p>	<p>引き続き、県と市の間で協議を行うなど、緊密な連携を図るとともに、北ふ頭について、関係者や有識者等の意見を聴取しながら、鹿児島港本港区エリアの利活用に係る検討委員会に対し、時機を逸することなく、丁寧に説明を行い、その論議も踏まえながら検討を進める。</p>	スポーツ課

スタジアム整備検討に係る今後の方向性（新たな協議会の設置）について

北ふ頭の検討を行う上で、以下のとおり多機能複合型スタジアム検討協議会を設置する。

1 目的

最終報告及び市議会や県の検討委員会の論議等を踏まえながら、北ふ頭について各面からご意見をいただき、スタジアム像の検討、機運向上に向けたアドバイスをいただく。

2 取組

- ・北ふ頭について、有識者等からの意見を聴取する。
- ・スタジアムは、県の検討委員会の検討要素の一つとなっており、協議会で出された意見を踏まえ、本市の考え方を整理し、ゾーニング案に意見反映を図る。
- ・協議会の開催状況は、適宜適切に市議会に報告する。

3 日程案

- | | | |
|--------|-----|---------------------------------------|
| 7月 | 第1回 | 設置、経過説明、北ふ頭についての意見聴取 |
| 8～9月 | 第2回 | ゾーニング素案説明及び素案等への意見聴取 |
| 10～11月 | 第3回 | 素案等への意見聴取、スタジアム像の検討、
機運向上に向けたアドバイス |

4 構成メンバー

- | | |
|------------|---------------|
| (1) 協議会委員 | 学識経験者、経済団体、学生 |
| (2) オブザーバー | 行政（県）、競技団体 |

5 附帯決議への考え方

- ・2候補地の除外により、新たな候補地として北ふ頭を検討したいと考えている。
- ・現在、県の検討委員会において、ゾーニングの検討が進められており、8月以降に議論が本格化するスケジュールであることから、市の考えを時機を逸することなく、説明していく必要がある。そのため協議会を設置し、有識者等に各面から意見をいただき検討を進める。
- ・スタジアム整備にあたっては、オール鹿児島での取組を進めることに県と合意しているところであり、今後も、引き続き緊密な連携を図り、事業の進捗に応じて、具体の検討を行っていく。



令和5年6月28日
鹿児島港本港区のまちづくりに関する調査特別委員会
提出資料 No.3

鹿児島市長 下鶴 隆央 様

2023年6月15日

株式会社鹿児島プロスポーツプロジェクト
代表取締役 徳重 剛

意向表明書の作成について（依頼）

時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、現在、当社では2024年のJ1クラブライセンス取得のため、申請準備を進めているところですが、6月2日付でJリーグより別紙のとおり、新スタジアム整備に関する状況について当社の活動報告および活動計画とホームタウン自治体である貴市および、活動領域である鹿児島県の意向を確認するための意向表明書を提出するよう依頼がありました。

これまで、当社としましては2014年に県勢初の全国リーグ「日本フットボールリーグ」へ参入、2016年にはJ3クラブライセンスを取得、同年よりJ3リーグへ入会しました。

その後、2016年にはJ2クラブライセンス取得の申請をしましたが、施設基準において2020年の国体に向けた改修でメインスタンド全面と屋根部分の改修工事を実施しているため、シーズンを通して観客席1万人を常時満たすことができないということなどが理由で不交付となりました。これを受け、サポーターの有志が団結し、新スタジアム整備を求める署名活動を同年10月16日から始めて、7万8,756筆を超える署名を同年12月16日に貴市ならびに鹿児島県に提出されております。

改修工事が終わった翌年2017年に入場可能数は基準を満たしたものの屋根に関してはこの改修工事では基準を満たすことはありませんでしたが、貴市および鹿児島県から新たなサッカー等スタジアムの整備に向けた取組の意向が表明されたことから2018年にJ2クラブライセンスが交付され、2019シーズンにはJ2の舞台で活動することが出来たという経緯がございます。

今シーズンは、第13節終了時点で6勝4分3敗の勝点22で2位につけており、目標としている「J3優勝・J2復帰」に向け、現在1位のチームとの勝点差2とJ2昇格圏内におり、市民県民の皆様の昇格という大きな期待に応えるために、ライセンス取得は必須であります。

つきましては、大変お手数をお掛けしますが貴市としての意向表明書をJリーグ宛に6月30日までに作成していただきますよう、何卒お願いを申し上げます。

<担 当>

(株)鹿児島プロスポーツプロジェクト

〒890-0062 鹿児島市与次郎1丁 10-21-5F

TEL : 099 - 812-6370

Ｊリーグによる通達について

Ｊリーグより、次の資料をＪリーグクラブライセンス事務局に提出するように通達がありました。

- (1) 新スタジアム整備に向けての弊クラブの活動報告および活動計画
- (2) 鹿児島県および鹿児島市の意向表明書

通達の背景

2018シーズンのJ2クラブライセンス申請時（2017年度）において、ホームスタジアムである白波スタジアムは2020年のかごしま国体に向けて大規模改修工事が行われていたが、本来、Ｊリーグスタジアム基準には「新設及び大規模改修を行うスタジアムについては、原則として屋根はすべての観客席を覆うこと」とされていることから、当該改修工事においてすべての観客席を覆う屋根を整備する必要があった。

しかし、当時、ホームタウン内に新たなスタジアムを整備する構想が存在しており、鹿児島県および鹿児島市からもＪリーグに対して整備実現に向けて取り組んでいく意向が文書にて表明されたことを踏まえ、二重投資を避けるという趣旨をお汲み取りいただき、J2クラブライセンスが交付された経緯がある。

しかしながら、その後、6年が経過している現時点においても、新スタジアムの整備に関する実現が不透明であると言わざるを得ない状況であり、今後のクラブライセンス判定にあたり、Ｊリーグより新スタジアム整備に関する状況確認があったもの。

ス ポ 第 6 8 号
平成29年6月19日

公益社団法人日本プロサッカーリーグ
チェンマン 村井 満 様

鹿児島市長 森 博 幸



サッカー等スタジアムの整備について

本市をホームタウンとする鹿児島ユナイテッドFCは、昨シーズンからJ3リーグに参入し、全国を舞台に奮闘する姿は、市民に大きな夢や感動を与えており、また、チームによる地域に根ざした活動により、サポーターも年々増加しております。

サッカースタジアムの整備に関しまして、昨年12月、サポーターを中心として支援の輪が広がり、スタジアム整備を要望する皆様から、7万8,756筆もの署名が本市及び県に届けられました。

このような中、昨年の市長選のマニフェストにおいて、オール鹿児島でサッカースタジアムを整備することを市民の皆様にお示しし、その後、本市の将来像と長期的なまちづくりの基本目標や施策の基本的方向を示す「第五次鹿児島市総合計画後期基本計画」の中に、スタジアム整備を盛り込み、本年2月に策定したところでございます。

この推進に向けて、本年3月には、本市、県、関係団体等で組織するサッカー等スタジアム整備検討協議会を立ち上げ、現在、地域の活性化に資する施設とするべく各面から協議いただいております。本年度中を目途に、立地、施設の機能、整備手法、スケジュール等の基本的事項を提言いただくこととしております。

つきましては、鹿児島ユナイテッドFCのJ2リーグクラブライセンス判定に当たり、上記取組を勘案の上、ご高配賜りますようお願い申し上げます。

スポ第 号
令和5年6月 日

公益社団法人日本プロサッカーリーグ
クラブライセンスマネージャー 大城 亨太 様

鹿児島市長 下 鶴 隆 央

多機能複合型スタジアムの整備に係る意向表明書（案）

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

また、かねてから、本市のスポーツ交流・振興の推進につきまして、ご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、本市では、人々を魅了し、連帯感を高め、交流人口の増につながるなど、多様な波及効果を生み出すスポーツを活かしたまちづくりに取り組む中で、本市の将来像と長期的なまちづくりの基本目標を示した第六次鹿児島市総合計画にスタジアム整備を位置付け、継続的に検討を進めているところです。

これまでの経過としましては、平成29年に本市、県、関係団体等で組織するサッカー等スタジアム整備検討協議会を設置し、平成30年に同協議会からスタジアムの必要性や都心部への立地が望ましいとされる提言書が本市に提出され、平成31年には、同協議会において、候補地の絞り込みがなされるとともに、本市と県との間で、スタジアム整備の実現に向けて、オール鹿児島での取組を進めていくことで合意をしたところです。

また、令和4年度に、来場者数や施設整備費、経済波及効果等の試算、配置案の検討等の調査を行うとともに、複数の候補地が鹿児島港本港区エリア内に位置していることから、県において設置された鹿児島港本港区エリアの利活用に係る検討委員会においても検討を行っておりますが、様々な課題があったことから、候補地を整理の上、先般、同エリア内の北ふ頭を新たな候補地として検討を始めたところであり、各面から意見を聴取する協議会の設置も予定しております。

同エリアは、中心市街地に近く、利便性も高いことから、貴リーグが推奨する「まちなかスタジアム」を体現できるとともに、エンターテインメント空間として、また、観光交流拠点として、スタジアムは同エリアに相応しい施設になると考えており、これまでも中心市街地における整備を前提としてきていることから、本市としては、今後も中心市街地の核となる施設として検討を進めてまいりたいと考えております。

本市をホームタウンとする鹿児島ユナイテッドFCは、J3リーグの中でもトップクラスの観客動員数を誇り、多くの市民から愛され、大きな夢と感動を与えている存在であり、県を含むオール鹿児島の体制で取組を進めてまいります。

本市としましても、引き続き、スタジアム整備に全力を尽くしてまいりますので、クラブライセンスの判定に当たりましては、以上の取組をご勘案の上、ご高配賜りますようお願い申し上げます。

令和5年6月28日

鹿児島港本港区のまちづくりに関する調査特別委員会

提出資料 No.6

鹿児島県におけるスタジアム整備に係る意向表明書概要

鹿児島市と新スタジアム整備に係る課題を共有しつつ協議を継続しているところであり、鹿児島ユナイテッドFCのクラブライセンス審査に当たっての配慮をお願いする。